

適正施設ガイドライン

【オオアリクイ *Myrmecophaga tridactyla*】

2024年8月

公益社団法人日本動物園水族館協会

1 飼育環境

1-1 獣舎

- ・ 各個体に寝室1つ、放飼場1つを備えること
- ・ 繁殖を視野に入れて飼育する場合、寝室は最低限3部屋を用意すること
- ・ 双子の場合や繁殖子の搬出前に次の繁殖がある場合に備え、4部屋確保できることが望ましい。

1-2 寝室（室内展示場）

1) 面積

- ・ 2頭で25 m²以上を推奨

2) 獣舎間の柵

- ・ 爪を引っかけて登れない高さ=1~1.4m程度があること
- ・ 縦柵構造を推奨（柵越しの給餌、ハンドリング、個体同士の社会行動が可能）
- ・ 繁殖目的の同居や複数頭飼育に対応できるよう獣舎間を開放できることが望ましい

3) 床

- ・ 滑らかなコンクリート、セメント、タイル、マルチバーク等、肉球や爪を傷めない材質であること
- ・ 濡れた床を乾燥させるための暖房装置の設置を推奨

4) 放飼場との出入り口

- ・ 開放可能な構造とすること
- ・ 複数の寝室がある場合、それぞれに放飼場への出入り口を設けることが望ましい

5) 空調管理

- ・ 室温15℃以上の保持を推奨
- ・ 室内外の温度差を大きくしないようにすることが望ましい
- ・ 湿度は50~60%を推奨
- ・ 体表に接しない暖房器具を推奨

1-3 放飼場（屋外展示場）

1) 面積

- ・ オオアライクイが行動エリアを選択できるよう、約150 m²以上が必要（EAZAのHusbandry Guidelineでは700 m²を推奨）
* 獣舎面積の広さについては、各園の獣舎面積と各個体の行動範囲データ（2018, 中山）を参考に設定した。

2) 外側の柵

- ・ 直立して届かない高さ=1.8m以上があること
- ・ 地上1~1.4m程度までは、爪を引っかけられないような材質（コンクリート、ガラス、縦柵等）を推奨（人止め柵等の設置がなければ必須）
- ・ 土を掘るため、地中部分は50cm以上の深さを推奨

3) 放飼場内の仕切り

- ・ 1-1「寝室」の【獣舎間の柵】を参照

4) 進入用の扉

- ・ 土の搬入や重機による掘り起しのため、園路から直接車両が進入するための扉を設けること

5) 床

- ・ 土床を推奨

*コンクリートだけの放飼場の場合、一部に土床を設けるのが望ましい。コンクリートに歩行が集中すると、怪我や異常行動の原因となる。

- ・ 日向、日蔭があること
- ・ 雨除け、日よけとなる構造物を設置すること

1-4 プール

水浴び、排泄に利用する。

- ・ 最低でも放飼場に1か所は設置すること
- ・ 深さは25cm程度、広さは最低でも1頭が全身入れる程度を推奨
- ・ 幼獣や高齢个体のため、スロープで深さに勾配を作ることが望ましい
- ・ 水中で排泄するため、排水口は糞を容易に流せる広さ（直径4cm以上）が望ましい
- ・ プールの縁は丸みを持たせることが望ましい
- ・ シャワーをプールに代えて設置することができる（併用できることが望ましい）

1-5 水飲み場

常に清潔な水を飲めるよう、中に排泄できない構造とすること

- ・ フェンスの外、獣舎の隅等の設置を推奨
- ・ 獣舎内の場合、肛門が届かない高さに設置すること
- ・ 前肢でひっくり返さないよう固定されていることが望ましい

1-6 その他のオブジェクト

環境エンリッチメントを目的として、次のような構造物を備えることが望ましい

- ・ 樹木（爪で傷つける可能性を考慮し、地面から1.5m程度までは周辺を保護する）
- ・ 横木、朽木（室内展示場にも備えることが望ましい）
- ・ 敷料（落ち葉、木材チップ、砂利など異なる材質のエリアを設けることが望ましい）
- ・ 穴（壁穴、フィーダー等、爪や鼻を挿入できる構造物）
- ・ 小屋（睡眠場所または雨、日差し、人の目線からの避難場所）

1-7 獣舎への収容

次のような場合、放飼場と獣舎の出入りを自由にするか、獣舎に収容することが望ましい

- ・ 外気温が35℃を超えた場合、空調の効いた室内に収容することが望ましい
- ・ 外気温が概ね18℃を下回った時
- ・ 夏期を除く雨天時、夏期の荒天時
- ・ 工事や樹木の伐採等、獣舎周囲（概ね半径300m以内）で大きな音が鳴る時
- ・ 夜間の放飼場展示を行う時

2 参考文献

Husbandary Guidelines for the Giant Anteater 1st Edition (2009):

<https://www.eaza.net/assets/Uploads/CCC/BPG-2019/2019-Anteater-demonstration-guidelines-EEP-Cie-approved.pdf>

中山 (2018) : 飼育下のオオアリクイにおける異常行動制御に関する調査研究. 平成 29 年度 JAZA 野生動物保護基金活動報告書